

第2回 南あわじ市総合計画審議会 議事要旨

【日時】

令和3年9月30日（木）14：00～15：30

【場所】

南あわじ市役所 第2別館3階多目的ホール

【出席者】

委員 17名（五十音順）

原会長、登里副会長、相野委員、市川委員、樫本委員、柏委員、片山委員、清川委員、草地委員、久保委員、小磯委員、武中委員、立花委員、出口委員、中尾委員、飛田委員、森委員

事務局：4名

総務企画部付部長（企画担当）、ふるさと創生課長、ふるさと創生課担当2名

事業者：3名（総合計画策定支援業務受託者）

【議事要旨】

1. 開会

事務局から開会の言葉

2. あいさつ

原会長より、あいさつ

3. 報告事項

①市民意識調査結果の概要について

事務局より、市民意識調査結果の概要について説明が行われた。

○審議

委員：総合計画に掲げる市民の役割の実践度には13項目あると思うが、抽象的な項目と具体的な項目がある。また、1つの項目でも、抽象的な項目と具体的な項目が一緒に書かれているものもある。例えば、「⑥地域に愛着を持ち、ふるさと資源を守り伝承すること」は抽象的で、「⑨ハザードマップの確認や避難訓練の参加など、防災意識の向上」は具体的だと思う。抽象的・具体的な項目が混在させている意図があれば教えていただきたい。

事務局：アンケートのもとになっているのは、前期基本計画の市民の役割のところ、本当はより細かい記載があるが、アンケートを行う上で、ある程度集約をした。その結果、分かりやすいものと抽象的なものと分かれてしまった。今後のアンケートの在り方として、参考にしたい。

②前期基本計画総括の概要について

事務局より、前期基本計画総括の概要について説明が行われた。

○審議

委員：内部評価が低くて、市民満足度が高いといったギャップが存在するものがある。計画や事業は指標で評価をされているが、評価方法が妥当だったかということも見直さないといけないと思う。評価の仕方が変われば市民満足度が合ってくるのではないか。

事務局：ご指摘のとおりで、内部評価で設定している指標が、市民の満足度として感じられるところと乖離している部分があるのではないかと感じている。後期基本計画においては、市民も内部評価も同じ方向で評価できるような指標をなるべく設定するようにしていきたい。

先程、委員からご指摘があった点にもなるが、市民の役割の実践度は、大きい項目で尋ねている。総合計画の中身も市民の方が総合計画の中身を理解いただいている前提でやっていると思うが、必ずしもそうでないのではないか。例えば、移住・定住では、市民の役割で示しているのが「地域全体で移住者を受け入れ、地域活動に参加しやすい体制づくりを構築します」であるが、実際にどのような市民の方に、我々が「ご協力をおねがいします」とできているか。後期計画の役割は市民が分かり易いものであるとか、また、何かの折にお願いしていくようなやり方をしてかないと、乖離していくのではないか。その点は、反省点かと思う。

委員：老人クラブの衰退化に対する対応をしていただいているが、この問題について意識として後期高齢者と高齢者のニーズにギャップがあるのではないか。事業内容そのものも、ニーズに応えられるようなものを提案していただきたい。その内容について、例えば「世話をする」ということについて、非常にしんどさを感じている人がいるのではないか。今後、組織化をして活動していくことになる、老々介護や独居の方の支援が出来るような体制づくりと同時に、お互いが勉強していくというステップが必要ではないか。

もう一点は、集落では公民館があるが老朽化をしているのではないか。非常に畳の部屋も多く、今の生活様式にあっていない。支援の在り方も問われるのではな

いか。

事務局：ご指摘のあった老人クラブや自治会、消防団もそうであるが、組織率の低下という課題があるかと思う。それぞれに合った形の取組をしていかなければならないと思うが、特に「老人クラブ」に関しては、ご指摘の後期高齢者と高齢者に分けて考える必要などあるかもしれない。どういうニーズがあって、どうしたら組織を保てるのか。例えば、老人クラブで書類を作らなければならないときもあろうかと思うが、パソコンを使わなければならないなど、億劫に思う人もいるのではないか。地域団体の中では、様々な課題があるかと思う。消防団に関しては、別途、チームを組んで検討を進めているところである。次回以降のワーキンググループで、どうあるべきかという所も含めて、議論をいただいて取り組んでいけたらと思う。

公民館といったハードの部分は、常々色々なところから要望を頂いている。地域にあった使い方などは、それぞれによって異なるかと思う。一律に「こうあるべき」といえないこともあるため、ハードも含めて、計画を策定するにあたって検討していきたい。

委員：後期高齢者では足腰も弱くなっている。これからは、要介護にならないための運動もしていかなければならない。ハード面でも、支援の体制がつくられるようなものがあればと思う。

事務局：ご指摘のとおりだと思う。そこも含めて考えていかなければならない。例えば、ケーブルテレビでもフレイル予防や100歳体操を放送しているが、やはり、地域の方に集まっていただくということにも意義がある。これからも、議論していきたい。

委員：公民館の所で、子ども達のためにもっと有意義に使える方法はないのか。公民館の部屋を作るよりも、今あるものを工夫して使う方法を考えていただければどうか。

事務局：ご指摘をいただきながら、今回の計画を策定させていただく。ワーキンググループでもテーマごとに分かれて、委員の方に入っていただきたいと思うが、担当テーマ以外もぜひ考えをいただき、よりよい計画が策定できればと思う。

委員：農業の所で、「1ha当り農業産出額」の評価がCであった。一方、ほ場整備率がSにもかかわらず産出額の評価がCというのは評価の仕方がおかしいのではないか。評価の仕方によって答えが全然違ってくるため、もう少し連動性を持たせたらどうか。生産量が一緒で、農家が減っていく事は良いことかどうかを別にしても、生産力は倍になった。そういうことを考えると、評価が上がることも考えられるのでCという評価はたして正しいのかと感じた。

事務局：今回、すべての計画において、例えば農業であれば農業がどこをどういったこと

を目指すのか、それに向かって計画を作り込む。それに合わせた指標を設定していくということに取り組んでいきたい。

委員：市民意識調査の満足度で郷土愛は満足度が高いが、50代の住み続けたくない理由に「地域に愛着が持てない」が高いという結果もある。住み続けたい理由にしても、「住んでいる地域が好きだから」と「歴史や文化が多く残る南あわじ市の風土が好きだから」の2項目が郷土愛に係ると思うが、それらは住み続けたい理由として格別に高いというわけではない。住み続けたい理由と満足が高い郷土愛にどのような関係があるのか。

事務局：これは、指摘のあった指標の設定の仕方にも係ると思うが、例えば、南あわじ市の子ども芸能発表会でも、発表団体が出来たから全てよしというものでないと考えするため、指標の設定の仕方でも検討する必要がある。また、市民意識調査における設問も設問数等の関係で抽象的にならざるを得ないため、なるべく具体的な設問となるよう工夫が必要。

一方で、「住みたい」「住みたくない」の問題でも、若い人は出ていきたいとある。他方で、10代は、「このまちが好き」「戻ってきたい」という回答も高い。次期計画では、よく指標の設定の仕方について検討していきたい。

③審議会委員参加型ワーキンググループの開催について

委員：ワーキンググループの素案はいつ配られるのか。

事務局：事前に配布する。事前に送付する資料で目指すべき姿からはじまって、その姿を達成するために何をすべきかを担当課で考えた資料を送付する。また、担当の分野の記載があるが、担当以外にも積極的な意見が欲しい。

4. その他

その他① 総合計画審議会開催スケジュールについて

事務局より、総合計画審議会開催スケジュールと、第1回審議会の回答として、兵庫県ひきこもりに関する実態の説明が行われた。

○審議

委員：旧庁舎が取り壊されたが、土地はその後どのように有効に使うのか。計画はあるのか。

事務局：財産は検討中だが、個別の財産はどうするかということを書くのは難しいと考え

るが、財産をどう活用するかは、計画の中で決めていきたい。

委員：ひきこもりは何人いるかと質問した経緯なのだが、環境を守る、排気ガスを減らすという団体では自分の市の中で電気や水道を供給している例もある。南あわじ市も自給率は高く、すばらしい市だと思ったが、そういう取組を通じて、市で電気や水道を管理して、税金から徴収して無料で水道を使えるようなモデルを市で作れるのではないか。また、そういう取組の中で、引きこもりや社会的弱者を取り込めるのではないか。そういう思いで、ひきこもりの質問をした。そういうことは可能か。

事務局：エネルギーの問題でも、国全体で 2050 年にゼロエミッションを目指すものがあり、自治体も取り組んでいかなければならない。その時に、やり方をどうするか。そこで、考えられるのが地域新電力、自治体と民間事業者との協力するやり方がある。そういうところに向かうのかどうか、目指す姿などを今回決めていきたい。ひきこもりも色々な側面があるが、そういう事が起きないように、地域で支える市仕組みなどをワーキンググループで議論していただきたい。

○閉会